

6. 内筒を入れたままのエラスターを 5. の静脈内に約 0.3 cm 挿入する。
7. 静脈内に確実に入ったこと確かめエラスター内筒を静かに約 1 cm 抜く, その後は外筒を静脈内に進めながら, 内筒を漸次, 引き抜く (静脈内に確実に入っていれば血液の逆流を見る)
8. エラスターを根元まで挿入, 固定し, 点滴セットに接続, 創面に消毒ガーゼを当てて終了。

*₁ 静脈内に挿入するエラスターは, なるべく 1 回で挿入すること, 数回の穿刺は, 点滴液の漏出, 出血の原因となる。

*₂ 抜去後は当ガーゼ上より軽く圧迫繃帯すれば自然止血, 治癒する。

8) に対する

発言 瀬戸屋 健三

末梢をしばってする旧来の静脈切開法の方が, テフロン針の抜去後の細菌検査から見て菌が多かった経験があり, 血流をとだえさせない演者らの方法が良いのではないかと思う。

発言 酒匂 規夫 (国立習志野)

ご発表の方法はいつから行なってますか, われわれも類似の方法で行ない, 同様の好結果を得てます。

9. Pancuronium bromide について

—Diallyl-nor-toxiferine との比較—

伊東 和人 (国立千葉)

小島秀一郎 (国立千葉・外科)

新しく開発された非脱分極性筋弛緩剤 Pancuronium の効果を知るため, 既に常用している Dialferine と比較した。麻酔法により作用が異なると考えられるため, 笑気・酸素のみ, GOF, NLA 法と麻酔法別に検討した。

Pancuronium は初回量約 0.1 mg/kg, Dialferine は 0.25 mg/kg としたところ, 投与間隔は N₂O-O₂ より GOF, NLA の方が延長するが, Pancuronium では有意差があり, Dialferine では有意でなかった。初回投与による血圧の変動は各麻酔法別に見た場合, Dialferine の下降傾向に対して, Pancuronium では変動少く, 両剤間に P<0.05 で有意差があり, Dialferine に比し Pancuronium は循環動態に影響の少ない筋弛緩剤であることが判った。それ以外の点に関しては, 両剤間に著明な差はないように思われる。

10. D40TA 使用経験

○水口 公信, 矢吹 敏子
(国立がんセンター)

前投薬には各種の minor tranquilizer が使用され, その効果判定には主観的, 客観的, 統計的処理が一般的に認められている。私達は疼痛閾値, 疼痛耐性を測定し, 鎮静作用との関係を追求している。今回 D40TA を使用する機会を得たので, その一部を報告する。D40TA は triagoloben yodiayepine の誘導体であり minor tranquilizer と考えられる。国立がんセンター病院で手術を行なう成人女子 20 例を対象にした。導入前 2 時間 3 mg 経口投与した。鎮痛効果を主視的な鎮痛, 催眠, 血圧, 脈拍の変動から調査すると約 75% に有効であった。催眠効果は軽度で, 麻酔からの覚醒遅延もない。疼痛閾値, 耐性への作用効果を Hardy Dolorimeter で測定した結果では Diazepam 0.4 mg/kg 筋注後ほぼ同様のパターンを示し, 類似した鎮痛効果と考えられる。なお収縮期血圧 15 mmHg 以内の下降を示す症例が 4 例に認められ, この方面の検討が必要であろう。

11. Pentazocine の胎盤移行より考察した産科麻酔使用量について (第 2 報)

大川 昭二 (大川病院)

先年の例会で, 木村は Pentazocine の血中濃度測定法と少数例の母体および臍帯血中濃度の定量成績を報告した。その後症例を追加し, 母児移行量よりみた Pentazocine の産科使用量について, ある程度の知見を得たので, 報告する。

Pentazocine の投与量を 15 mg (14 例) 30 mg (64 例) 45 mg (11 例) の 3 群に分け, 合計 85 例 (10 例の帝王切を含む) の分娩について, 母体静脈血中および臍帯血中濃度を測定した。

(1) Pentazocine は約 10~60 分間に母体血中で peak level に達し, その後急激に減少するが, かなり長時間存在し, 臍帯血中においても, 同様のことが認められた。従って, 反覆投与に当っては, 十分に量および, 時間的配慮が必要であることを示唆している。

(2) 母体および臍帯血中濃度の比率は, 15 mg 0.70 Ratio $\left(\frac{\text{臍帯血中}}{\text{母体血中}}\right) > 1 \rightarrow 9\%$, 45 mg 群では 1.23, Ratio $> 1 \rightarrow 40\%$, 30 mg 群では 10 分まで 1.018, 60 分 $\rightarrow 0.831$, 120 分まで $\rightarrow 0.803$, 120 分以上 0.769 で, Ratio $> 1 \rightarrow 18\%$ であった。この成績から推定されることは, 投与量が増加するに従って, 母体血中濃度よりも, 胎児血中濃度が高くなる傾向があることを意味している。